

教育出版「中学社会」教科書

これを待ってたよ!!

～3つのポイント～

教育出版の教科書「中学社会」は、

1

大幅にリニューアル!

「編・章の導入部」

2

高校入試にも対応!

「学習の振り返り」

3

さらに充実!

「SDGsとの関連」

本物の知識が身に付く、教科書です。

『誰かの心に残る仕事がしたい…』そんな思いをもって、教科書づくりに全力で取り組んできました。大切な内容をしっかりと、興味深く教科書に描くことで、生徒たちの記憶に残り続ける、卒業後もずっとそばに置いておきたくなるような教科書を目指しました。



1

大幅にリニューアル!「編・章の導入部」

～見通しをもった学習と生徒の関心をひく工夫～

地理 p.5 ▶

第1編 世界と日本の地域構成

▼第1編の学習を見通そう▼

第1章 世界の地域構成

- 1 地図から見る世界
- 2 地球儀から世界地図へ
- 3 200近くの国々からなる世界
- 4 「ユニオンジャック」はどこにある?

第2章 日本の地域構成

- 1 世界の中の日本の位置
- 2 日本の国土の広がり
- 3 日本の領土をめぐる
- 4 7の都府県

▼第1編の学習を見通そう▼

第1章 世界の地域構成 (p.6-15) ▶ 世界の国々について、その位置関係や広がりについてみていこう。
 第2章 日本の地域構成 (p.16-23) ▶ 日本の位置について確かめ、経済活動の位置関係や広がりについてみていこう。

第1章では、小学校の社会科の学習を振り返りながら、まず世界の姿を知るために、陸地と海の分布や地球儀の使い方、世界の国々の名称などについて学びます。

続いて、日本の姿を知るために、日本の位置や国土の広がり、領土などについて学んでいきます。さあ、地域の学習を始めましょう。





2023年1月1日、関東地方を走る新幹線135号線を日本の新幹線(日本標準時)と定め、時刻表は日本の標準時(UTC+9)で表示されています。時刻表135号線と交差する新幹線は、新幹線135号線です。その中でプラットフォームで交差しているのはこの新幹線(大宮線)のみです。この新幹線は、その中でプラットフォームで交差しているのはこの新幹線(大宮線)のみです。

教科書中の二次元コードを読み取り、役立つ情報を活用しよう。

リンク 動画 クイズ

◀ 地理 p.145

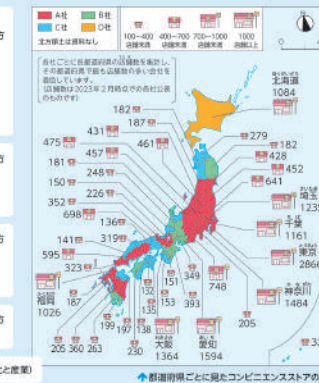
第2章 日本の特色と地域区分

▼第2章の学習を見通そう▼

第2章の学習を見通そう。さまざまな視点から地域の特色を調べ、地域区分してみよう。

第2章 日本の特色と地域区分

- 1 自然環境 (p.148-150)
 - ① 自然環境 (地形や気候、災害・防災)
 - ② 自然環境 (地形や気候、災害・防災)
- 2 人口・社会 (p.151-153)
 - ③ 人口・社会 (人口の増減、人口の分布)
 - ④ 人口・社会 (人口の増減、人口の分布)
- 3 産業・経済 (p.154-156)
 - ⑤ 産業・経済 (産業の発展、産業の立地)
 - ⑥ 産業・経済 (産業の発展、産業の立地)
- 4 文化・生活 (p.157-159)
 - ⑦ 文化・生活 (文化の発展、文化の立地)
 - ⑧ 文化・生活 (文化の発展、文化の立地)



第2章では、「自然環境」「人口・社会」「産業・経済」「文化・生活」の4つの観点から、日本の特色と地域区分について学びます。それぞれの観点から、日本の特色と地域区分について学びます。それぞれの観点から、日本の特色と地域区分について学びます。

第2章の学習を見通そう。さまざまな視点から地域の特色を調べ、地域区分してみよう。

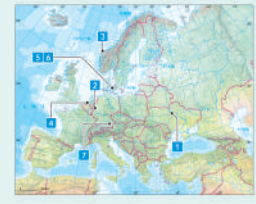
第2章の学習を見通そう。さまざまな視点から地域の特色を調べ、地域区分してみよう。

導入部では、学習の見通しや見方・考え方を提示し、学習の始まりとしての役割を強めました。資料と合わせて、これからの学びへ意識を傾けてほしいです。

2 ユーロパ州

▼ユーロパ州で、なぜ国々の結びつきが深まったのか▼

この節では、国々がそれぞれの歴史や文化をもちながらもユーロパ州(EU)という組織に結びつく様子について学習していきます。国々がそれぞれの歴史や文化をもちながらもユーロパ州(EU)という組織に結びつく様子について学習していきます。国々がそれぞれの歴史や文化をもちながらもユーロパ州(EU)という組織に結びつく様子について学習していきます。



1 ユーロパ州の位置 (p.62)

2 ユーロパ州の位置 (p.62)

3 ユーロパ州の位置 (p.62)



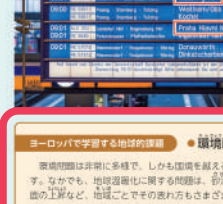
4 緑化された線路を走る高速電車



5 海上の風力発電施設



6 コーピング・ダンデン市内の自転車道



7 ユーロパ州の位置 (p.62)

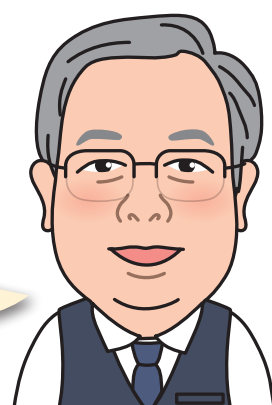
ユーロパ州で学習する地域の課題

環境問題

環境問題は非常に多岐にわたります。しかし、気候変動や自然災害の増加など、地球規模での課題は多くあります。また、人口の増加や都市化の進展など、地域レベルでの課題も数多くあります。これらの課題を解決するためには、国際的な協力や地域レベルでの取り組みが必要です。

◀ 地理 p.62-63

世界地誌各州の先頭ページでは、節を見通す「学習テーマ」、地球的課題とSDGsの項目を示しました。写真だけでなく、他地域との比較に役立つ基礎資料や学習のヒントになるグラフを通じて、イメージをふくらませてもらえればと思います。



3 さらに充実!「SDGs との関連」 ～新しい時代を生きるために～

公民の学習を始めるにあたって

～みんなで描く持続可能な未来予想図

10年後の自分や地球

みなさんは、10年後の自分の未来や地球の未来を思い描くことができますか。いきなり想像することは、難しいかもしれません。これから始まる公民の学習を通じて、「私たちは、どのようにして持続可能な未来を築くことができるのだろうか」という大きな問いへの答えを、いっしょに探していきたいと思います。そのヒントになるのが、下の図のような考えです。これは、2030年までに達成すべきものとして、国際連合に

よって提案されたSDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)というものです。「人間、地球および将来のための行動計画」として、17の目標と169のターゲットで構成され、「地球上の誰一人として取り残さない」ことを誓っています。先進国も発展途上国も、すべての国や人々が取り組むべき普遍的な目標として掲げられています。

SDGsの17の目標

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGsと「本質的な問い」

SDGsの17の目標は、人間(目標1～6)、豊かさ(目標7～11)、地球(目標12～15)、パートナーシップ(目標16～17)の5つの要素のいずれか一つ以上に関連しています。17の目標を達成するためには、各目標に関連する持続可能性のあらゆる課題について、考え続ける必要があります。例えば、「生命とは何か」という問いを考えると、SDGsの「1 貧困をなくそう」「2 飢餓をゼロに」「6 安全な水とトイレを世界中に」などの目標を考えることにつながるでしょう。また、「平和とは何か」という問いを考えると、「4 質の高い教育をみ

なげに」「10 人や国の不平等をなくそう」「16 平和と公正をすべての人に」などの目標を考えることにつながるでしょう。このような、すでに答えが見つからなかったり、複数の答えが出てきたりすることもある「本質的な問い」は、他にも「環境とは何か」「人権とは何か」「豊かさとは何か」「幸せとは何か」「文化の多様性とは何か」「民主主義とは何か」「安全とは何か」など、たくさんあります。「本質的な問い」を公民の学習のなかで見つけて、SDGsと関連づけながら、自分なりの答えを探し続けていきましょう。

「つながり」への気づき

本質的な問いやその答えを探していくと、その根底には「私たちは、どのようにして持続可能な未来を築くことができるのだろうか」という問いに答えるための、共通するものの見方や考え方、感じ方があることに気づくでしょう。それは、さまざまな「つながり(関係)」への気づきです。

公民の学習のテーマは、現代の社会で起こっているすべての事柄と、私たち自身です。そこで、個人と個人のつながり、社会と社会のつながり、個人と社会のつながりに注目してみよう。個人と個人のつながりでは、年齢が異なることによって生じる世代間の違いや、生活環境や文化が異なることによって生じる文化間の違いを意識して、どのようにつながればよいのかを考えてみてください。社会と社会のつながりでは、移民の受け入れ問題や環境問題など、一つの国や地域では解決が難しい問題を意識して、問題の解決に向けてどのようにつながればよいのかを考えてみてください。個人と社会のつながりでは、現代社会に起こっている問題を、ローカル(地域的な視点)とグローバル(地球規模)な視点の両方からとらえ、の中で自分ができることは何かを考えてみてください。こうしたことは、SDGsの「17 パートナーシップで目標を達成しよう」と深く関連しています。

る文化間の違いを意識して、どのようにつながればよいのかを考えてみてください。社会と社会のつながりでは、移民の受け入れ問題や環境問題など、一つの国や地域では解決が難しい問題を意識して、問題の解決に向けてどのようにつながればよいのかを考えてみてください。個人と社会のつながりでは、現代社会に起こっている問題を、ローカル(地域的な視点)とグローバル(地球規模)な視点の両方からとらえ、の中で自分ができることは何かを考えてみてください。こうしたことは、SDGsの「17 パートナーシップで目標を達成しよう」と深く関連しています。



北九州市のドードー
(2020年)
市内の河原に漂着したプラスチックからつくられた作品です。

地理、歴史、そして公民へ

公民の学習は、これまでに学んできたことをふまえた「社会・科学の集大成」となります。そのため、地理や歴史で学んだ事柄を活用することも、大切になってきます。地理では、世界と日本の諸地域について学び、人々の暮らしの特質や抱えている課題について学習しました。社会を、空間的に理解する方法を身につけてきたと思います。歴史では、時代の推移や変遷、人物・できごととの関係などについて学び、そ

れぞれの歴史的意義について学習しました。社会を、時間的に理解する方法を身につけてきたと思います。社会を空間的に、あるいは時間的にとらえていくことは、現代の社会を考えるうえでも、とても大切です。地理、歴史、そして公民で学んだ知識や情報を活用し、持続可能な未来のあり方について自分なりに考え、さらに深めていけるよう、学習を進めていきましょう。

▲ 公民 p.I-II

持続可能な社会に向けて

なぜ、ルールをつくる必要があるのだろう

私たちの生活する社会には、ともに生きるさまざまな人がいます。よりよい社会をいっしょに築いていくためには、いかにルールをつくり、それを守る必要があるかを、避難所を例に考えてみましょう。

もしも、あなたの学校が「避難所」になったら

気候変動の影響とみられる深刻な自然災害が、日本でも毎年発生しています。いつ、あなたの学校が避難所になるかもしれません。その時、避難所ではどのようなルールの下に運営されることが望ましいかを考えてみましょう。

避難所となった高校

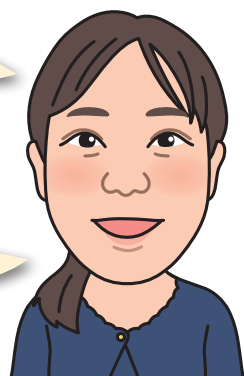
- 2011年3月11日に発生した大地震による津波は、高台にある大槌高校へ続く坂のすぐ下まで押し寄せました。津波をのがれた大槌高校には地震発生直後から町民が集まり、震災当日の夜から8月上旬まで、学校は避難所として利用され、多い時には1000人近くの被災者が避難していました。校庭は自衛隊の駐留所となり、教室には銀行や病院が入るなど、高校全体が一つの町のようになって避難者を支えました。大槌高校の避難所運営は、大槌高校生徒と教職員で行われました。当時は、避難所運営に関するマニュアルなどはなく、避難者名簿の作成や、布団がわりの段ボールやカーテンの配布、トイレの水くみ、食料の配給、出たての湯の提供など、様々な対応が、避難者やボランティア、関係機関と協力して行われました。



りません。近年では、差別をあおるヘイトスピーチも増えています。「ともに生きる」ということの意味を、改めて考えたいです。

SDGs 10 不平等 16 平和

各特設ページ・本時の各時間に
関連するSDGsの項目を、**アイコン**でわかりやすく紹介しています。



▲ 公民 p.82

公民の教科書では、各章の「学習のまとめと表現」で、自らの意見をSDGsと関連づけて考える項目を設定しました。三分野の学びから、「持続可能な未来予想図」を描いていってほしいと思います!

